

# 強意語的機能を持つ英語の罵倒語の 進化特性について

## On Developmental Features of English Swear Words Functioning as an Intensifier

新 井 洋 一

### 要 旨

本稿では、英語の罵倒語の中で、強意語的機能を持つ damn, fucking, bloody を取りあげる。まず、高増 (2000), Hughes (2006), McEnery (2006), Ljung (2011) などを含む既存研究を前提に、これらの共通の特徴をまとめた後、OED 3 (Online) の初例を基に、これらの罵倒語の通時的な発達順序を辿ることにする。その結果、bloody ⇒ damn ⇒ fucking の順序で、ほぼ100年間隔で強意語的機能が発達していることを確認する。そして、取り上げた3種類の罵倒語の共通の機能的進化として、adj. (pre-noun: attributive) ⇒ adj. (pre-noun: intensifier) ⇒ adv. (pre-adjective: intensifier) ⇒ adv. (pre-verb: intensifier), という機能転換 (functional shift) の1つである品詞転換 (conversion) が起きていることを明らかにする。また同時に、これらの罵倒語が修飾する共起構造として、どのような構造があるのかについて考察する。

後半では、新井 (2011) に倣って、「快性」素性 [±PLEASANT] (略して [±P]) を導入し、罵倒語が快素性 [+P] を持つ語との共起が、かなり進んでいることを明らかにする。そして、約30年の間隔がある BNC と NOW corpus (<https://corpus.byu.edu/now/>) の2つの大規模コーパスから、罵倒語の共起語の頻度の高いものを抽出し、特に快素性 [+P] を持つ共起語の広がり度を調査してまとめ、最近は特に、「damn と共起する [+P] 形容詞の種類と動詞との共起の種類が格段に増えていること」を明らかにする。

### キーワード

罵倒語, 強意語, 意味素性, BNC, NOW corpus, bloody, damn, fucking

## 0. はじめに

本稿では、おもに **bloody**, **damn**, **fucking** という 3 種類の罵倒語 (expletives or swearwords) について考察する。まず BNC の用例を紹介しながら強意語の特徴を紹介した後、強意語的機能を持つこれら 3 種類の罵倒語が、罵倒語の分類カテゴリーにおいてどのような位置付けになるか確認する。次に高増 (2000), Hughes (2006), McEnery (2006), Ljung (2011) などの既存研究を前提に、強意語的機能を持つ罵倒語に共通する基本的特徴を整理する。

その後、OED の具体例を観察しながら、その強意語的機能の通時的発達過程と仕組みについてまとめる。さらに、罵倒語との共起語の意味的特性について、快性 [PLEASANT] という意味素性を導入し、OED の用例を通時的に分析しながら、共起語の意味特性について、通時的にどのような特徴があるのかについて考察する。最後に、2 つの大規模コーパスを比較して、最近の 30 年間の言語変化について考察し、その際立つ特徴を明らかにしたい。

### 1. 罵倒語の強意語的機能

本稿で取りあげる **bloody**, **damn**, **fucking** の 3 種類の罵倒語は、修飾するその直後の語や語句に対して、「否定的な評価」あるいは「嫌悪・憤り・苛立ちなどの不快感」を、強めたり増大させる役割を担う。たとえば、以下の BNC からの用例を見てみよう。

- (1) a. They must have been a **bloody** nuisance.
- b. I knew later I had been a **damn** fool.
- c. ... we'd have a **fucking** rain forest.

(1) の各用例の下線部の名詞 *nuisance*, *fool*, *rain forest* は、いずれも一般的には「好ましくない」または「否定的な」意味を包含しているが、この否定的意味内容が、直前の太字のそれぞれの罵倒語によって強調されている。ここで重要な点は、名詞の前にあるこの *bloody*, *damn*, *fucking* は、形容詞の文字通りの意味ではなく、否定的意味を強めたり増大させるだけの意味に変化しているということである。

もしこれらの形容詞が本来のそのままの意味であれば、それぞれ「血まみれの厄介もの」、「呪われた愚か者<sup>1)</sup>」、「セックスしている酸性雨林」というような不自然な意味になってしまう。ここでは、*bloody*, *damn*, *fucking* などの文字通りの本来の意味は消え、**a complete nuisance**, **a complete fool**, **a terrible rain forest** のように、後続の否定的な名詞を強調する意味になっていることに注意したい。

## 2. 罵倒語の分類

本稿で取りあげる *bloody*, *damn*, *fucking* の罵倒語について考察していく前に、罵倒語の種類全体を概観し、これらの強調語として機能する3種類の罵倒語が、どのような分布位置を占めるのか、まず押さえておくことにしたい。罵倒語の分類の方法には、さまざまな既存の研究があるが、本稿では、以下の5タイプに分類することにする。

- (2) a. 身体器官関連 : *cock/dick*, *cunt/pussy*, *bollocks*, *ass/arse*, *ass/arsehole*, etc.
- b. 体液・分泌・排泄関連 : ***bloody***, *shit*, *piss*, etc.
- c. 宗教関連 : ***damn***, *damned*, *darn*, *God*, *Jesus*, *Christ*, *Goddamn*, *hell*, *devil*, etc.
- d. 性行為関連 : *fuck/fucking*, *cocksucker*, *motherfucker*, etc.

e. 蔑称(epithet): bastard, nigger, Jap/Nip; cripple, spastic; pig;  
whore, whoreson, son of a bitch, etc.

ここで確認しておきたいのは、この分類では、強意語的機能を持つ bloody, damn, fucking の3つの罵倒語は、それぞれ別の種類の罵倒語類に属し、重複していないということである。

### 3. 強意語的機能を持つ罵倒語の基本的特徴

本節では先ず、これらの罵倒語に共通する基本的特徴についてまとめておくことにしたい。

#### 3.1 印刷物における伏字

これらの罵倒語は一般には忌避されるべきものと考えられ、当初、小説や新聞などの印刷物では、つづり字の一部を省略したり、ダッシュ (—), アスタリスク (\*) などによって置き換える伏字で表現されていた。現在は、そのまま表現されることが増えている。

- (3) a. b — y (bloody)  
b. d\*\*n (damn)  
c. f\*\*\*\*\*g (fucking)

#### 3.2 罵倒語の社会階級性

罵倒語の強意語的機能はいずれも、最初は下層の社会階級のあいだで生まれ、徐々に上層の階級に広がっていったと言われている。この点を裏付ける根拠として、1887年出版の *New English Dictionary* (現 OED) の bloody の解説に、以下の説明がある。以下の太字部分が該当部分である。

- (4) **bloody**: As an intensive: Very .... (中略) In general colloquial use from the Restoration to c1750; **now constantly in the mouths of the lowest classes**, but by respectable people considered 'a horrid word', on a par with obscene or profane language, and usually printed in the newspapers (in police reports, etc.) 'b — y'.

また、後半部では、「bloody が上流階級の人々には『恐ろしい語』(a horrid word) とみなされ、卑猥とか不敬な言葉とともに、b — y のように、語の間の部分に伏字が使われた」という説明がなされている。

### 3.3 語頭子音

罵倒語の語頭の子音に、以下の子音が代表的に使われるという特徴を持つ (Hughes 2006: 343)。

- (5) a. /b/: **bloody, bastard, bitch, blasted, bugger**, etc.  
b. /d/: **damn, damned, darn, devil, drat**, etc.  
c. /f/: **fucking, footling, frigging**, etc.

### 3.4 語中挿入

強調する語や語句の前だけでなく、語や語句のあいだに挿入することができる。これを語中挿入 (infixing または tmesis /tmiːsis/) と呼ぶ。ただし、おもに bloody, fucking に見られ、damn の例はほとんど稀である。

- (6) a. abso-**bloody**-lutely, not **bloody** likely  
b. the ee-**fuckin**'-end of it

OEDには、語中挿入の例も提示されている。それぞれの初例と、最近の例のみを引用しておくことにしたい。

(7) **bloody 8.b** 形容詞としての語中挿入

1866 W. H. Thomes *Bushrangers* 212 I will not turn traitor even to save my life. I should despise my bloody self if I did.

2005 M. Cerasini *Veto Power* 92 Who's Shamus Lynch think he is, the Prince of bloody Wales?

OEDによる **bloody** の副詞としての語中挿入の語義説明には、特に語中挿入の効果として、「笑いをとるため」という説明が付けられている<sup>2)</sup>。語中挿入の語用論的説明として興味深い。以下に初例と重要な例を含むものを引用したい。

(8) **bloody** の副詞としての語中挿入

1871 *Ballou's Monthly Mag.* July 56/1 Look here, Mr. Bloody Davis, you've held your head up a little too high in this packet.

1911 *La Follette's Weekly Mag.* 4 Feb. 11/2 He tried to say that something was absolutely true. He succeeded in saying, 'It is abso-bloody-lutely true.'

1914 G. B. Shaw *Pygmalion* 111 Walk! Not bloody likely.

なお、上の最後の1914年の例は、G.B. Shawの*Pygmalion*からの引用であるが、この用例のOEDへの引用は若干問題がある。この点については第5節で取りあげたい。

もう1つの **fucking** の語中挿入の例は以下のとおりである。ここでも、

OED から初例を含む早期の例と最近の例に絞って示しておきたい。

(9) **fucking** の語中挿入

[1921 *Notes & Queries* 19 Nov. 415 Words were split up to admit it [sc.

the word fucking]: ‘absolutely’ became ‘abso—lutely’.]

1970 T. Southern *Blue Movie* ii. x. 108 Tony was delighted.

‘Fan-fucking-tastic!’

2001 J. Franzen *Corrections* 149 Unbelievable! Unfuckingbelievable!

Gary dropped the receiver on his desk.

4. 3種類の罵倒語の強意語的機能の発達順序過程

この節では, bloody, damn, fucking の3種類の罵倒語が, 強意語として発達したプロセスを, OEDの初例から確認していくことにしたい。品詞的には, 形容詞と副詞のものが該当し, それぞれの該当年と初例を以下に引用してみたい。

(10) a. **bloody, adj. (1669)<sup>3)</sup>, adv. (1676)**

1669 Dryden *Wild Gallant* i. 3 In short, I was drunk; damnably drunk with Ale; great Hogen Mogen **bloody Ale**: I was porterly drunk.

1676 G. Etherege *Man of Mode* i. i. 10 Not without he will promise to be **bloody drunk**.

b. **damn, adj. (1775), adv. (1787)**

1775 *Narragansett Hist. Reg.* (1885) III. 263 A man that ... was noted for a **damn cuss**.

1787 *Mirror* 164 Don't beef and butter go off **damn soberly**?

c. **fucking**, adj. (1864) , adv. (1893)

1864 *Suppressed Bk. about Slavery!* 211 'Hush, you \*\*\*\*\*

b—h, will you take the name of the Lord in Vain on the Sabbath day?' (この用例について OED では、伏字を含む b—h は bitch なので、全文字伏字の \*\*\*\*\* は fucking と推測できるという解説がなされている<sup>4)</sup>)

1893 J. S. Farmer & W. E. Henley *Slang* III. 80/2 **Fucking** .. Adv. Intensive and expletive; a more violent form of *bloody*.

ここで注目したいのは、それぞれの起源のあいだに、およそ100年前後の間隔があることである。また、いずれも共通して形容詞の後に副詞が生まれていて、形容詞からの副詞への品詞転換 (conversion) を実現していると言える。この統語上の機能的転換 (functional shift) も重要な共通点として認識しておく必要がある。つまり、OED 自身は明示的に述べてはいないものの、OED の用例提示の記述を精査することで、これら3種類の罵倒語の強意語的機能は、およそ100年の間隔で以下のような通時の間隔と順序で生まれてきたと言えるであろう。

図1 3種類の罵倒語の強意語的機能の発達間隔と発達順序

<b>bloody</b>	⇒	<b>damn</b>	⇒	<b>fucking</b>
adj. (1669) > adv. (1676)		adj. (1775) > adv. (1787)		adj. (1864) > adv. (1893)

5. 3種類の罵倒語の機能的発達 (functional development)

前節では、bloody, damn, fucking の3種類の罵倒語が、図1にまとめたような順序で発達して来たことを確認した。そして、いずれの罵倒語も、形容詞から副詞への順序で品詞転換が起こっていることも確認した。本節



ではこの機能的転換 (functional shift) を、具体的により詳しく観察してみたいと思う。

すでに第0節で述べたように、これらの罵倒語は、元々罵倒語ではなく、名詞の前に置く限定的形容詞 (attributive adjective) として、元々の別の意味を持っていた。つまり、bloody は「血に染まった・血まみれの」という意味を、damn は、damned から発達したもので、damned の持つ「呪われた・呪われている」という意味を、そして fucking は「セックスしている」という意味を元々持っている。

それが、特定の共起語との結びつきでは、その本来の意味が薄くなり、その後続の共起語を強調したり非難する強意語として機能するようになった、と考えられる。つまり、最初は「①名詞の直前に形容詞として生じたもの」が、次に「②形容詞の本来の意味を失い強意の意味を持つ形容詞」に変わったことになる。次に名詞のみならず「③形容詞も強調する副詞」に拡張され、さらに発展して、「④動詞の前でも使われる」という発達過程を経ていると推測される。

これをまとめると、次のような発達プロセスとなる。

- (11) ① adj. (pre-noun: **attributive**) ⇒ ② adj. (pre-noun: **intensifier**) ⇒  
 ③ adv. (**pre-adjective**: intensifier) ⇒ ④ adv. (**pre-verb**: intensifier)

これらのそれぞれに該当する具体例は、以下のものである。これらは、すべてBNCからのものである。

- (12) ① Roy wiped his **bloody** hands on his apron.  
 ② They must have been a **bloody** nuisance.  
 ③ I asked you to come here at such a **bloody** ridiculous time.

④ I'll **bloody** come down and ask you then.

つまり、本稿で取りあげる3種類の罵倒語はどれも、「①通常の名詞の前の形容詞から、②本来の意味が消えて強調の意味のみを持つ形容詞に変わり、それが他の強調語の副詞と機能が重なることで、③形容詞も修飾する副詞への品詞転換 (conversion) が起こり、さらに副詞の機能が拡大して、④動詞も修飾するようになった」とまとめられよう。

なお、他の2種類の罵倒語で、(12)の④のように動詞を修飾している具体例は次のようなものである。これらのいずれもBNCからである。

- (13) a. Gary and Margot just **fucking** kill me!  
b. That's what they **damn** want, isn't it?

## 6. bloody に関する覚書

ここでは、若干横道に逸れるが、強意語の bloody について書き記しておきたいことがある。1914年に、G.B. Shaw の *Pygmalion* という戯曲が初演されたとき、上流階級の観客たちが一斉に凍りつき、拒絶反応を示したと言われるスキャンダラスな事件の原因として、罵倒語の bloody を含む次のセリフがよく引用される。(この例は、すでに第3.4節の(8)で引用した語中挿入の例でもある。)

- (14) 1914 G. B. Shaw *Pygmalion* 111 Walk! Not **bloody** likely.

これは、G.B. Shaw の *Pygmalion*<sup>5)</sup> の一節であるが、前後の文脈は、以下のようになっている。

- (15) ELIZA: [*nodding to the others*] Good-bye, all.  
FREDDY: [*opening the door for her*] Are you walking across the Park,  
Miss Doolittle? If so —  
ELIZA: Walk! **Not bloody likely.** [Sensation]. I am going in a taxi.  
[She goes out].

当時の上演では、セリフのこの **bloody** という言葉を聞いた観客が一瞬凍りついたと言われ、よく引用されるセリフであるが、実は、その数セリフ後に、以下のようなセリフのやり取りがある。

- (16) HIGGINS: [*coming grimly at her from the divan, and accompanying her to the door*] Good-bye. Be sure you try on that small talk at the three at-homes. Don't be nervous about it. Pitch it in strong.  
CLARA: [*all smiles*] I will. Good-bye. **Such nonsense, all this early Victorian prudery!**  
HIGGINS: [*tempting her*] Such **damned nonsense!**  
CLARA: Such **bloody nonsense!**  
MRS. EYNSFORD HILL: [*convulsively*] Clara!

観客が凍りついたのは、むしろ、(15) の Eliza のセリフの **bloody** ではなく、(16) の Clara が **Victorian prudery** を含む波下線部すべてを **nonsense** と呼び、さらに Clara がその **nonsense** に **bloody** を付けたセリフであったと思われる。OED には、観客が凍りつきスキャンダルになったという説明が付けられているが、その説明は、Clara の **Such bloody nonsense!** を引用して付けるべきだったように思われる。

罵倒語は、下層階級の人々から広がってきたものの、まだ一般の教養人

までは広がっていないように考えられるかもしれない。確かに、一般的には、意図的に使用を避けられているのが事実であるが、教養人や上流階級の人々にも無意識的に使われているという。その一例として、以下の用例を確認したい。

- (17) “I never used the word ‘bloody’ because it is unparliamentary. It is a word I never **bloody** well use.” (cited in Hornadge 1980: 144)

この例は、1970年にオーストラリアの下院議員の一人が発言したものである。自分で「使ったことがない語」と発言したすぐ後で、**bloody**を全く無意識的に使っていることがわかる。このように、すでに1970年代に、強意語の**bloody**が意識的ではないにせよ、教養人の語彙の中に入り込んでいたと言えよう。

## 7. 強意語的機能を持つ罵倒語と共起語の意味特性

第1節の(1)では、強意語的機能を持つ罵倒語が、否定的または不快な意味を持つ語と共起する例をあげた。以下に再掲したい。

- (18) a. They must have been a **bloody** nuisance.  
b. I knew later I had been a **damn** fool.  
c. ... we'd have a **fucking** rain forest.

次に、以下の用例を観察してみたい。これらのいずれもBNCからのものである。

- (19) a. That **bloody** bird has annoying me for days.

b. Let's get the **damn** thing finished.

c. My God, we're all victims in this **fucking** city.

(19) (a)-(c) の下線部の名詞 *bird*, *thing*, *city* は, (18) (a)-(c) の下線部の名詞とは異なり, 特に否定的な意味を包含していない, 中立的な意味の名詞である。しかし, 直前の太字の罵倒語によって, 話し手による強い「嫌悪・憤り・苛立ちなどの不快感」が込められ, 「好ましくない」または「否定的な」意味合いが付与される結果となっている。つまり, 共起名詞に対して不快な意味合いを付帯する意味的韻律 (semantic prosody) 現象<sup>6)</sup> が感知できる。更に, 次の (20) (a)-(c) の例を見てみよう。これらもすべて BNC からの引用である。

(20) a. **Bloody** amazing it was!

b. I think he is **fucking** brilliant.

c. And Eleanor was **damn** lucky to have him as an escort once in a blue moon.

(18) や (19) の例と異なって, (20) の例では, 太字の罵倒語が修飾している下線部の語の品詞は形容詞であり, しかも「好ましい」または「肯定的な」意味を持つ形容詞である。そして, これらの形容詞と共起している罵倒語は, (18) の場合と異なり, 強い不快感を付与したり否定的な意味は与えず, 肯定的な形容詞の意味を強調する語として機能している。

以上の例に見られるように, *bloody*, *damn*, *fucking* の 3 種類の罵倒語は, 強意語として機能するものの, 共起する対象語の意味内容に違いがある。次節では, これらの違いを言語学的にどのように明確にしたらよいかをまず示したい。その後, それぞれの罵倒語について, 共起語との意味的關係

性においてどのような違いがあるか、通時的な比較も取り入れて考察していくことにしたい。

## 8. 意味素性 [PLEASANT] の導入

前節では, nuisance, fool, rain forestなどは、「好ましくない」または「否定的な」意味を持ち, bird, city, thingなどは「中立的な」意味を持ち, amazing, brilliant, luckyなどは、「好ましい」または「肯定的な」意味を持つ, と述べた。言語学的には, これらをどのように明示すればよいだろうか。本稿では, 新井(2011)に倣って, 「快性」[PLEASANT] という意味素性を導入することによって明示することにする。この意味素性を導入することによって, これらの語(句)はそれぞれ, 以下の3種類の意味素性を備えているものと仮定できる。

- (21) a. 不快素性 [-PLEASANT] : nuisance, fool, rain forest
- b. 中立快素性 [±PLEASANT] : bird, city, thing
- c. 快素性 [+PLEASANT] : amazing, brilliant, lucky

同様に, 他の以下のような単語についても, 快性素性によって容易に意味の違いを明示できることになる。なおここ以降では, 上記の意味素性表記を便宜上簡略して, [-P], [±P], [+P] のように表記することにする。

- (22) a. [-P] 素性を持つ単語  
      ridiculous, unacceptable, toxic, wrong, useless, false, bonkers,  
      reprehensible, pointless, disgraceful, heartbreaking, failed,  
      devastated, destroyed, disgusted, etc.
- b. [+P] 素性を持つ単語

charming, brilliant, convincing, delicious, delightful, convincing, gorgeous, fascinating, hilarious, fantastic, amazing, delighted, etc.

## 9. 罵倒語とその共起語の意味特性の通時的変化の特徴

以下では、OED の用例を具体的に観察しながら、それぞれの罵倒語と共起する語が、「好ましさ」の意味面、つまり快性の点において、通時的に何らかの規則性や共通の特徴を持っているかどうか、考察していきたい。

### 9.1 **bloody** とその共起語の快性

ここでは、OED 内の **bloody** の形容詞の用例と、副詞へ品詞転換した用例を通して、その共起語の快性について考察することにする。

#### 9.1.1 形容詞の **bloody** と共起する名詞の快性

罵倒語 **bloody** の形容詞用法は、OED の語義定義の 8 番目に提示され、複数の該当用例が付与されている。ここでは、初例を含む早期の例と、比較的最近の例に絞って引用し、その共起語の快性素性について見ていきたい。

#### (23) **bloody adj. 8. colloq. a.**

1669 Dryden *Wild Gallant* i. 3 In short, I was drunk; damnably drunk with Ale; great Hogen Mogen **bloody Ale**: I was porterly drunk.

1957 M. Savill tr. H. Böll *Unguarded House* xv. 210 As he crossed the courtyard he heard the joiner say: 'The chap's a **bloody disgrace**.'

2010 P. O'Grady *Devil rides Out* vi. 110 I've seen her sit up all night nursing a child who was having a severe asthma attack when she should have been off-duty ... The woman was a **bloody legend**.

以上の例で注意すべきは、**bloody**によって修飾される名詞の快性素性が、それぞれ異なることである。1669年の例では、**Ale**は[±P]素性を持つ中立名詞であり、1957年の例では、**disgrace**「恥さらし」は[-P]素性を持つ不快名詞であり、2010年の**legend**「偉人」は[+P]素性を持つ快名詞である。共起語の快性素性はそれぞれ異なるが、強意語の**bloody**は、結果的にそれぞれ**terrible Ale**, **complete disgrace**, **real legend**のような解釈を与えて共起語内容を強調している。

ここで重要な点は、快名詞との組み合わせの例が2010年の例であり、他のものに比べて通時的な順番で後続しているということである。つまり、快名詞との組み合わせは、中立名詞や不快名詞との組み合わせより、後に発達したものと考えられる。言語学的には、罵倒語の強意語の否定的な意味が消え（つまり漂白化が進み）、快性の高いものも強調できるようになったと考えられる。次に、強意語の副詞として、形容詞や副詞を修飾している例について触れることにしたい。

#### 9.1.2 副詞の **bloody** と共起する形容詞の快性

OEDでは、**bloody**の強意語的機能の副詞として、以下のような語義説明が付与されている。

- (24) **bloody** 8.c. adv. 2. colloq. As an intensifier, modifying an adjective or adverb: absolutely, completely, utterly. More recently also **as a mere filler**, with little or no intensifying force (although generally implying some element of **dislike, frustration, etc., on the part of the speaker**). (太字および下線は筆者による)

この中の、「最近では、（一般的には、ある程度の話し手側の嫌悪や苛立ちを含むものの）単なる間つなぎ語として機能し、意味を強める力はほとんどない



か全く伴わない」という説明は、先ほど述べた、意味の漂白化を裏付けているものと考えてよいであろう。次に、初例を含む早期の例と最近の例を以下に引用しておきたい。

- (25) 1676 G. Etherege *Man of Mode* i. i. 10 Not without he will promise to  
be **bloody drunk**.  
1693 T. Southerne *Maids Last Prayer* ii. ii. 31 Faith and troth, you  
were **bloody angry**.  
2006 *Company* Nov. 11/2 You can't deny David's a **bloody good-**  
looking lad.

それぞれの下線部の共起語の快性素性は、1676年の drunk [-P], 1693年の angry [-P], 2006年の good-looking [+P] である。2006年の good-looking [+P] の例からわかるように、ここでも肯定的な快性素性を持つ形容詞との共起は、他の素性の形容詞との共起よりも後から生まれている。

## 9.2 damn とその共起語の快性

ここでは、OED 内の damn の形容詞の用例と、副詞へ品詞転換した用例を通して、その共起語の快性について考察することにする。

### 9.2.1 形容詞の damn と共起する名詞の快性

形容詞の damn の罵倒語機能は、bloody から約100年後に生まれたが、その例は以下のようなものである。ここでも、初例と最近の例に絞ってあげておくことにする。

- (26) **damn A. adj.** (= **damned adj.**)

1775 *Narragansett Hist. Reg.* (1885) III. 263 A man that ... was noted

for a **damn** cuss.

1970 D. Stuart *Very Sheltered Life* 248 You one of those **damn**'  
Yankee reporters?

上の (26) の1775年の初例も、次の1970年の例も、**damn** が修飾する *cuss*, *reporters* は、特に否定的な内容の名詞ではなく、中立的な [±P] 素性を持つ名詞であり、形容詞の **damn** によって、話し手の不快な評価や不快感が加えられている。

#### 9.2.2 副詞の **damn** と共起する形容詞の快性

以下の例は、この形容詞の **damn** が副詞として強意的に使われるようになった例である。

(27) **damn** B. adv. .

1787 *Mirror* 164 Don't beef and butter go off **damn** soberly?

1882 in T. M. Healy *Lett. & Leaders* (1928) I. 150 T. P. quoted my answer as 'I'm **damn** glad'.

1941 N. Coward *Australia Visited* i. 6 We were in it once and for all and intended to **damn** well get on with it.

1945 C. S. Lewis *That Hideous Strength* ix. 228 You're in a **dam** dangerous position already.

1959 'O. Mills' *Stairway to Murder* xiii. 138 It was a **damn** fool thing to do, and I realise it now.

1970 N. Marsh *When in Rome* 89 I call it a **damn** poor show. Leaving us high and dry.

最初の3例は、意味を強調される後続の語が、すべて不快な意味を持たな

い形容詞である。1787年の *soberly*, 1882年の *glad*, 1941年の *well* のいずれも, [+P] の意味素性を持つ快形容詞である。一方, 1945年以降の後半の 3 例では, 後続の語 (*dangerous*, *fool*, *poor*) がすべて, 不快な意味素性 [-P] を持つ名詞である。つまり, 強意語副詞の *damn* は, 通時的に早期の段階から, [+P] の形容詞と共起できるようになっていることになる。

この点は, 前節の *bloody* やこの後の節で触れる *fucking* と大きく異なる点である。この理由として考えられる可能性の 1 つは, すでに強意語副詞となっている *bloody* などの影響を受けて, 早い段階から強意語への進化が進んでいたということであろうが, より確かな可能性については, 今後の考察に委ねたいと思う。

### 9.3 *fucking* とその共起語の快性

ここでは, OED 内の *fucking* の形容詞の用例と, 副詞へ品詞転換した用例を通して, その共起語の快性について考察することにする

#### 9.3.1 形容詞の *fucking* と共起する名詞の快性

形容詞の *fucking* と類似のものとして, *motherfucking* (1890), *fucking-A* (1948) などがあるが, 本稿では省略し別の機会に譲ることにしたい。まず, 形容詞としての *fucking* の用例を見ていくが, ここでも, 初例を含む早期の例と, 比較的最近の例に絞って引用し, その共起語名詞の快性素性について見ていきたい。

#### (28) *fucking* A. adj. 2. a.

[1864 *Suppressed Bk. about Slavery!* 211 'Hush, you \*\*\*\*\* b—h, will you take the name of the Lord in Vain on the Sabbath day?']

1921 *Let.* 5 Sept. in C. Hilliard *Littlehampton Libels* (2017) ix. 133 You **bloody** fucking sods, you think you are big but we are as good as

you.

1960 D. Lessing *In Pursuit of Eng.* 12 ‘What the **f—ing** hell’s that for?’ my father said.

2004 M. St. Amant *Committed* (2005) x. 96 Aside from one or two guys who seem to know what they’re doing, this league is a **fucking** train wreck.

1864年の初例については、すでに第4節(10)(c)で触れたように、\*\*\*\*\* **b—h** が **fucking bitch** の伏字であり、伏字の **fucking** と共起しているのは、不快名詞の **bitch** [-P] である。その他では、1921年の **fucking sods** [-P], 1960年の **hell** [-P], 2004年の **train wreck** [-P] のいずれも不快名詞であり、罵倒語 **fucking** とは共起しやすい組み合わせになっている。

### 9.3.2 副詞の **fucking**

品詞転換した副詞の例についても、初例を含む早期の例と、最近の例に絞ってあげることにする。

(29) **fucking B. adv.** (Used as an intensifier)

1893 J. S. Farmer & W. E. Henley *Slang III.* 80/2 **Fucking.. Adv.**  
Intensitive and expletive; a more violent form of *bloody*.

1948 K. Amis *Let.* 9 Feb. (2000) 161 I must say I shall be **fucking** glad when Hilly is too blown out with a child conceived 8 of wedlock for us to go near either of our parents.

1971 *It* 2 June 18/3 The Young bloods .. are so **fucking** good they can do spontaneous albums.

上記の引用例のうち、1893年の初例については、**Fucking** は辞書の見出

して、その共起語は特に示されていない。しかし、それ以外の例では、glad [+P], good [+P] のいずれの共起形容詞も、快素性を持っている快形容詞である。ここでも、時代的には後になって快素性を持つ形容詞との共起が起こっていると言えよう。

#### 9.4 罵倒語と共起する語の快性に関する通時的観点からのまとめ

強意語的機能を持つ罵倒語は、その罵倒語の意味的性質から、否定的または不快な意味の単語、つまり不快素性 [-P] を持つ単語と共起しやすいはずである。しかしながら、前節のOEDの通時的な用例の検証からは、3種類のすべての罵倒語について、必ずしも同じ傾向を持っているとは言い難いものであった。

罵倒語のbloodyについては、[-P] や [±P] の意味素性を持つ、不快語や中立快語との共起がまず起こり、その後 [ +P ] の意味素性を持つ快語との共起が起こっている。罵倒語のfuckingについても、ほぼ同様の傾向があるように思われる。その一方、罵倒語のdamnについては、特にその副詞については、早い段階から [ +P ] の素性を持つ快形容詞 (glad, good) などと共起していて、異質な特徴を示していることがわかった。

罵倒語のdamnについては、他の2種類の罵倒語と異質な特徴を持つものの、基本的には罵倒語が快素性を持つ語と共起するのは、罵倒語の強意語的機能が進化してから起こると考えるのは、妥当な仮説であると思われる。そしてこの罵倒語と快素性を持つ語との結びつきは、すでにBNCの用例の中にも多く見られ、OEDの通時的用例からも明らかなように、かなり早い時期から起こっている現象であることが確認できた。

### 10. 最近30年の罵倒語とその共起語の意味特性の通時的変化

本節では、最近の30年間の罵倒語とその共起語の意味特性について細か

く調べ、今後の共起語の意味特性がどのような変化を進めて行くのか、考察することにした。そのために、今から約30年近く前の1993～1994年代のデータであるBNCと、BNCから約30年近く経った現在進行中のコーパスデータであるNOWコーパスの両方のコーパスを比較することにする。それぞれのコーパスから、罵倒語と共起している語を抽出し、快素性を持つ単語と不快素性を持つ単語の分布を比較調査し、その概要をまとめてみることにする。その結果として、この30年近くのあいだの通時的変化に、どのような変化があるのか考察し、今後の通時的変化にどのような予測が可能かを考察してみることにしたい。

#### 10.1 BNCとNOW Corpusにおける罵倒語 **bloody** と共起する名詞の比較

次ページの表1は、BNCとNOWコーパス<sup>7)</sup>の中の、**bloody**と共起する名詞を頻度の高いものから抽出した表である。網掛けのものは不快素性を持つ名詞である。なお、以下の表1～6の**NOW Corpus**の値は、2018年9月末時点のデータに基づくものである。

表1からは、**bloody**の元々の意味と結びつく名詞が多く、特にNOWコーパスでは、その傾向が強いことがうかがえる。

表1 BNCとNOW Corpusにおける **bloody** と共起する名詞の比較

	BNC Corpus			NOW Corpus		
	Noun (lenma)	Freq.	Per Mil.	Noun (lenma)	Freq.	Per Mil.
1	[HELL]	532	5.32	[WAR]	2578	0.47
2	[THING]	160	1.6	[NOSE]	1767	0.32
3	[LOT]	37	0.37	[BATTLE]	1501	0.27
4	[FOOL]	36	0.36	[HELL]	1443	0.26
5	[CAR]	31	0.31	[CONFLICT]	1406	0.26
6	[NOSE]	31	0.31	[CLASH]	1396	0.25
7	[TIME]	30	0.3	[ATTACK]	947	0.17
8	[MONEY]	27	0.27	[CRACKDOWN]	750	0.14
9	[DOG]	27	0.27	[IDIOT]	719	0.13
10	[BATTLE]	24	0.24	[THING]	623	0.11
11	[WAR]	24	0.24	[MURDER]	571	0.1
12	[WOMAN]	23	0.23	[HISTORY]	564	0.1
13	[IDIOT]	23	0.23	[MESS]	546	0.1
14	[COLD]	22	0.22	[CAMPAIGN]	525	0.1
15	[NUISANCE]	22	0.22	[SCENE]	472	0.09
16	[PLACE]	20	0.2	[TALE]	437	0.08
17	[CHEEK]	17	0.17	[ELBOW]	409	0.07
18	[DAY]	17	0.17	[VIOLENCE]	383	0.07
19	[HEAD]	16	0.16	[FIGHT]	378	0.07
20	[MESS]	16	0.16	[INSURGENCY]	377	0.07

10.2 BNCとNOW Corpusにおける **bloody** と共起する形容詞の比較

次のページの表2は、BNCとNOW コーパスの中の、**bloody** と共起する形容詞を頻度の高いものから抽出した表である。網掛けのものは不快素性を持つ形容詞で、網掛けがなく太字のものは快素性を持つ形容詞である。BNCの中にすでに、**bloody** と共起する快素性を持つ形容詞が存在することがわかる。また、NOW コーパスでは、その数が増加していることがうかがえる。つまり、**bloody** が強意語的機能を高めて、より広い種類の快素性を持つ形容詞と結びついていることがわかる。

表にあげたものも含めて、**bloody** と共起する快素性を持つ上位100位以

表2 BNCとNOW Corpusにおける **bloody** と共起する形容詞の比較

	BNC Corpus			NOW Corpus		
	Adjective (lenma)	Freq.	Per Mil.	Adjective (lenma)	Freq.	Per Mil.
1	[GOOD]	115	1.15	[GOOD]	2071	0.38
2	[AWFUL]	74	0.74	[CIVIL]	1513	0.28
3	[GREAT]	69	0.69	[HARD]	791	0.14
4	[STUPID]	44	0.44	[FANTASTIC]	603	0.11
5	[BIG]	28	0.28	[DIFFICULT]	429	0.08
6	[MARVELLOUS]	22	0.22	[GREAT]	423	0.08
7	[OLD]	22	0.22	[AWFUL]	374	0.07
8	[RIDICULOUS]	18	0.18	[BRILLIANT]	352	0.06
9	[SILLY]	18	0.18	[BIG]	249	0.05
10	[USELESS]	17	0.17	[MILITARY]	226	0.04
11	[HARD]	16	0.16	[TOUGH]	197	0.04
12	[BUGGERING]	16	0.16	[DISGUSTING]	181	0.03
13	[LUCKY]	13	0.13	[STUPID]	173	0.03
14	[LIKELY]	13	0.13	[ETHNIC]	138	0.03
15	[LONG]	13	0.13	[AWESOME]	131	0.02
16	[SURE]	12	0.12	[ANTI-DRUG]	129	0.02
17	[MAD]	11	0.11	[LONG]	126	0.02
18	[CIVIL]	11	0.11	[EXPENSIVE]	124	0.02
19	[DISGUSTING]	11	0.11	[LUCKY]	114	0.02
20	[COLD]	10	0.1	[SECTARIAN]	107	0.02

内の形容詞を、以下にまとめておきたい。各形容詞の後の数値は100万語あたりの値である。

(30) a. [+P] Adjectives with **bloody** in BNC

good (1.15); great (0.69); marvelous (0.22); lucky (0.13); sure (0.12); well, glad, lovely (0.06); brilliant (0.05); superior, young, true (0.04); interested, right, nice, pleased, fine, amazing, useful (0.03); wonderful, cheerful (0.02)

cf. [2] awful (0.74)



d. [+P] Adjectives with **bloody** in **NOW Corpus**

good (0.33); fantastic (0.11); great (0.08); brilliant (0.06); awesome, lucky (0.02); obvious (0.01); lovely, proud, hilarious, well, nice, wonderful, exciting, impressive, gorgeous, sure, happy, important, glad, beautiful (0.01); excited, right, fast, strong, delicious (0)

cf. [7] awful (0.06)

また具体例は、次のようなものである。

(31) Examples of **bloody** in **NOW Corpus**

a. If he [Löw] hadn't already won the World Cup and had a **bloody** good record he'd be gone the next day.

(18-07-06 GB:The Guardian)

b. Performance yesterday wasn't great but the result was **bloody** fantastic and in years to come that's what I'll remember ...

(18-02-25 GB: Vitalfootball)

c. "She dug out some old tapes last Christmas – **bloody brilliant!**"

(18-06-12 GB:Norfolk Eastern Daily Press)

d. "It was a bit surreal and just a bit of a blur, but now it feels real and it feels **bloody awesome**. I don't think you can better this."

(17-09-30 GB:The Guardian)

10.3 **BNC**と**NOW Corpus**における罵倒語 **damn** と共起する名詞の比較  
次ページの表3は、BNCとNOWコーパスの中の、damnと共起する名詞を頻度の高いものから抽出した表である。ここで興味深いのは、NOW

表3 BNCとNOW Corpusにおけるdamnと共起する名詞の比較

	BNC Corpus			NOW Corpus		
	Noun (lenma)	Freq.	Per Mil.	Noun (lenma)	Freq.	Per Mil.
1	[THING]	108	1.08	[THING]	3261	0.59
2	[SIGHT]	39	0.39	[SHAME]	610	0.11
3	[FOOL]	19	0.19	[TIME]	470	0.09
4	[RIGHT]	18	0.18	[SIGHT]	316	0.06
5	[NUISANCE]	10	0.1	[LIE]	232	0.04
6	[BUSINESS]	9	0.09	[FOOL]	205	0.04
7	[LOT]	8	0.08	[YANKEE]	197	0.04
8	[COLD]	6	0.06	[DAY]	190	0.03
9	[STUFF]	5	0.05	[BUSINESS]	160	0.03
10	[SHAME]	4	0.04	[GAME]	152	0.03
11	[LIE]	4	0.04	[WELL] <sup>8)</sup>	145	0.03
12	[CHEEK]	3	0.03	[MIND]	143	0.03
13	[SITE]	3	0.03	[FUN]	140	0.03
14	[YANKEE]	2	0.02	[RIGHT]	114	0.02
15	[CRYING]	2	0.02	[JOB]	111	0.02
16	[IDIOT]	2	0.02	[E-MAIL]	107	0.02
17	[FOUNTAIN]	2	0.02	[PLACE]	86	0.02
18	[BATH]	2	0.02	[SELF]	83	0.02
19	[CAT]	2	0.02	[BALL]	83	0.02
20	[GUN]	2	0.02	[PHONE]	77	0.01

コーパスの中に、BNCにはない快素性を持つ名詞 (WELL, FUN) との共起が見られるということである。ここでも、damnの強意語機能が強まっていることがうかがえる。

#### 10.4 BNCとNOW Corpusにおけるdamnと共起する形容詞の比較

次のページの表4は、BNCとNOWコーパスの中の、damnと共起する形容詞を頻度の高いものから抽出した表である。BNCの中にすでに、damnと共起する快素性を持つ形容詞が、かなり多く存在することがわかる。また、NOWコーパスでは、数は同じように多い上、その種類が増加してい

表4 BNCとNOW Corpusにおける **damn** と共起する形容詞の比較

	BNC Corpus			NOW Corpus		
	Adjective (lenma)	Freq.	Per Mil.	Adjective (lenma)	Freq.	Per Mil.
1	[GOOD]	75	0.75	[GOOD]	4956	0.9
2	[SURE]	22	0.22	[SURE]	933	0.17
3	[GREAT]	10	0.1	[FINE]	879	0.16
4	[SILLY]	9	0.09	[HARD]	655	0.12
5	[FINE]	8	0.08	[INCREDIBLE]	370	0.07
6	[STUPID]	7	0.07	[COOL]	348	0.06
7	[LUCKY]	7	0.07	[CLOSE]	344	0.06
8	[HARD]	5	0.05	[IMPRESSIVE]	248	0.05
9	[BIG]	5	0.05	[HIGH]	215	0.04
10	[RIGHT]	4	0.04	[FUNNY]	192	0.03
11	[POOR]	3	0.03	[LUCKY]	182	0.03
12	[BORING]	3	0.03	[PROUD]	182	0.03
13	[CLOSE]	3	0.03	[LONG]	167	0.03
14	[WELL]	3	0.03	[AWESOME]	133	0.02
15	[TIRED]	2	0.02	[HOT]	131	0.02
16	[DIFFICULT]	2	0.02	[EXPENSIVE]	128	0.02
17	[CLEAN]	2	0.02	[BIG]	126	0.02
18	[AWKWARD]	2	0.02	[RIGHT]	121	0.02
19	[FUNNY]	2	0.02	[EXCITED]	118	0.02
20	[LATE]	2	0.02	[GREAT]	115	0.02

ることがうかがえる。つまり、**damn** が強意語的機能を高めて、より広い種類の快素性を持つ形容詞と共起するようになっていことがわかる。

表にあげたものも含めて、**damn** と共起している快素性を持つ上位100位以内の形容詞は、以下のものである。

(32) a. [+P] Adjectives with **damn** in BNC

good (0.75); sure (0.22); great (0.1); fine (0.08); lucky (0.07); right (0.04); well (0.03); clean, funny, nice, powerful (0.02); proud, smart, pleased, relaxed, popular, positive, clever, full, hopeful,

intellectual, brilliant, desirable (0.01)

f. [+ P] Adjectives with **damn** in **NOW Corpus**

good (0.82); sure (0.16); fine (0.15); incredible (0.07); impressive (0.04); proud (0.03); lucky (0.03); awesome, big, great, excited, happy, nice (0.02:86); exciting, smart, entertaining, cute, pretty, important, interesting, beautiful, amazing, special, tasty, glad, strong, effective, delicious, popular, brilliant, adorable, sweet, powerful, charming (0.01); clear, true, talented, clever, useful, decent, hilarious, perfect, accurate, fantastic, good-looking, fun (0)

NOW コーパスで、damn と共起する形容詞が快素性を持つ例の一部を、以下にまとめておきたい。

(33) Examples of **damn** in **NOW Corpus**

- a. Sleeping Dogs feels like it's both faithful to the source material and **damn** good fun to play. (18-09-28 GB:TechRadar India)
- b. iPhones are pretty **damn** incredible when you think about it. 20 years ago, we had cassette tapes ... (15-10-26 GB: Cosmopolitan UK)
- c. She looked so **damn** sexy, he badly wanted to kiss that pretty mouth of hers. (17-12-27 NG: Pulse Nigeria)
- d. " ... I'm a fan of all but **damn** do what Queens do and come together like it was back in the 90s they need u to show them it can be done all y'all are Queens." (17-12-16 US: Celebrity Inside)

10.5 BNCとNOW Corpusにおける **fucking** と共起する名詞の比較

次の表5は、BNCとNOWコーパスの中の、**fucking** と共起する名詞を頻度の高いものから抽出した表である。この **fucking** についても、**bloody** と同じように、快素性を持つ名詞と共起してる例は見当たらない。次の10.6節で見るように、基本的には、形容詞と共起する場合に、快素性を持つものと共起する傾向が強い。

表5 BNCとNOW Corpusにおける **fucking** と共起する名詞の比較

	BNC Corpus			NOW Corpus		
	Noun (lenma)	Freq.	Per Mil.	Noun (lenma)	Freq.	Per Mil.
1	[HELL]	154	1.54	[IDIOT]	310	0.06
2	[THING]	28	0.28	[HELL]	295	0.05
3	[BASTARD]	16	0.16	[THING]	285	0.05
4	[SHIT]	15	0.15	[SHIT]	200	0.04
5	[HEAD]	14	0.14	[TIME]	176	0.03
6	[BITCH]	13	0.13	[MORON]	125	0.02
7	[MONEY]	12	0.12	[HEAD]	106	0.02
8	[CAR]	10	0.1	[WORLD]	104	0.02
9	[CRAP]	9	0.09	[BITCH]	102	0.02
10	[CUNT]	9	0.09	[ASSHOLE]	99	0.02
11	[WAY]	9	0.09	[WAY]	98	0.02
12	[WANKER]	8	0.08	[DAY]	97	0.02
13	[DAY]	8	0.08	[IDEA]	97	0.02
14	[IDIOT]	8	0.08	[JOKE]	97	0.02
15	[DOOR]	7	0.07	[LIFE]	97	0.02
16	[DOG]	7	0.07	[YEAR]	92	0.02
17	[WOMAN]	7	0.07	[SONG]	85	0.02
18	[RIGHT]	7	0.07	[MIND]	85	0.02
19	[PLACE]	6	0.06	[MONEY]	81	0.01
20	[MAN]	6	0.06	[JOB]	80	0.01

10.6 BNCとNOW Corpusにおける **fucking** と共起する形容詞の比較

次ページの表6は、BNCとNOWコーパスの中の、**fucking** と共起する

表6 BNCとNOW Corpusにおける **fucking** と共起する形容詞の比較

	BNC Corpus			NOW Corpus		
	Adjective (lenma)	Freq.	Per Mil.	Adjective (lenma)	Freq.	Per Mil.
1	[STUPID]	20	0.2	[ <b>GREAT</b> ]	270	0.05
2	[ <b>BRILLIANT</b> ]	16	0.16	[ <b>GOOD</b> ]	245	0.04
3	[ <b>GOOD</b> ]	16	0.16	[ <b>AWESOME</b> ]	241	0.04
4	[ <b>MAD</b> ]	12	0.12	[STUPID]	219	0.04
5	[ <b>GREAT</b> ]	11	0.11	[ <b>CRAZY</b> ]	198	0.04
6	[EASY]	10	0.1	[ <b>AMAZING</b> ]	168	0.03
7	[ <b>AWFUL</b> ]	10	0.1	[ <b>COOL</b> ]	150	0.03
8	[ <b>HORRIBLE</b> ]	9	0.09	[HARD]	138	0.03
9	[ <b>BIG</b> ]	8	0.08	[ <b>WEIRD</b> ]	127	0.02
10	[ <b>USELESS</b> ]	8	0.08	[ <b>BRILLIANT</b> ]	85	0.02
11	[ <b>CRAZY</b> ]	7	0.07	[ <b>INSANE</b> ]	75	0.01
12	[OLD]	7	0.07	[ <b>RIDICULOUS</b> ]	74	0.01
13	[ <b>NEW</b> ]	6	0.06	[FUNNY]	69	0.01
14	[ <b>DISGUSTING</b> ]	6	0.06	[ <b>DEAD</b> ]	67	0.01
15	[FUNNY]	6	0.06	[ <b>BAD</b> ]	66	0.01
16	[ <b>WEIRD</b> ]	6	0.06	[ <b>TERRIBLE</b> ]	66	0.01
17	[ <b>DEAD</b> ]	5	0.05	[ <b>USELESS</b> ]	59	0.01
18	[ <b>CLEVER</b> ]	5	0.05	[HOT]	58	0.01
19	[ <b>RIDICULOUS</b> ]	5	0.05	[ <b>AWFUL</b> ]	55	0.01
20	[RIGHT]	5	0.05	[ <b>SERIOUS</b> ]	54	0.01

形容詞を頻度の高いものから抽出した表である。BNCの中にすでに、**fucking** と共起する形容詞で快素性を持つものが、かなり多く存在し、またNOWコーパスでは、その種類が増加していることがわかる。

表にあげたものも含めて、**fucking** と共起する上位100位以内の形容詞で、快素性を持つものを、以下にまとめておきたい。

(34) a. [+P] Adjectives with **fucking** in BNC

brilliant, good (0.16); great (0.11); big (0.08); new (0.06); clever, right (0.05); hilarious, well (0.04); nice (0.3); lucky, pure, smart,

marvellous, beautiful, holy, excellent, wonderful (0.02); typical, free, gorgeous, superb, sweet, important (0.01)

cf. [1] stupid (0.2), [4] mad (0.12)

b. [+P] Adjectives with **fucking** in **NOW Corpus**

great (0.05); awesome, good (0.04); amazing (0.03); brilliant, hilarious, incredible, beautiful, fantastic (0.01); perfect, happy, lucky, proud, delicious, best, rich, gorgeous, wonderful, nice, handsome, excellent, phenomenal (0)

cf. [4] stupid (0.04), [5] crazy (0.04)

具体的に **fucking** が、快素性を持つ形容詞と結びついている例の一部を以下にまとめておきたい。

(35) Examples of **fucking** in **NOW Corpus**

a. “I do drugs because they’re so **fucking** awesome. They’re amazing!”  
(18-02-07 CA: Brunswickan)

b. It would make a **fucking** hilarious and really interesting documentary to just see us traveling on these tours.

(16-04-11 US: San Antonio Curren)

c. ..., it’s a **fucking** beautiful moment when underground music gets recognition from the normies. (17-08-10 GB: TeamRock.com)

d. Weller added: “There’s some **fucking** great songs on the first two albums, some big tunes, ...” (18-02-28 GB: NME.com)

10.7 **NOW Corpus** における動詞と共起する例

第5節において、罵倒語の進化のひとつに、動詞を修飾する強意副詞が

あり、それらの例がすでにBNCでも見られることを指摘した。ここでは、さらにNOWコーパスからの例を以下にあげて、動詞への強意語的機能の広がりを確認しておきたい。

- (36) a. “Having said that, I **bloody** love lawn bowls on TV! I’d love to see more boccia coverage, ...” (18-07-22 GB BBC News)
- b. Jaco Kriel has finally arrived in the Test arena. At least I **bloody** hope so after his last two Test performances!” (17-08-23 ZA Sport24)
- c. “Who cares about youth service? I don’t **bloody** care whether she did youth service or not.” (18-08-10 NG Daily Post Nigeria)
- (37) a. “ ... I’m a fan of all but **damn** do what Queens do and come together like it was back in the 90s they need u to show them it can be done all yall are Queens.” (17-12-16 US: Celebrity Inside)
- b. It shouldn’t have taken this long to mention this, but **damn** is the music in this show consistently amazing. (17-10-31 CA National Post)
- c. It’s the kind of place that’s easy to take for granted when it’s your every day stop, but **damn** do you miss it when there’s nowhere around to get a decent bialy stamped with garlic and sesame seeds. (16-10-27 US: Los Angeles Times)
- (38) a. “I’m like, ‘The Handmaid’s Tale?’ I **fucking** love that show, and I cried when it ended because I couldn’t handle not seeing it. ...” (17-11-27 GB: NME.com)



b. He screamed "I **fucking** hate you!" ... (18-04-22 GB: L.A.Weekly)

c. I was like, 'Are you **fucking** kidding me? You're using me as bait?' (17-11-17 US BuzzFeed News)

## 11. ま と め

以上、本稿では、英語の罵倒語の中で、強意語的機能を持つ **damn**, **fucking**, **bloody** を取りあげて、その基本的特徴を概観したあと、OED 3 (Online) の初例から、**bloody** ⇒ **damn** ⇒ **fucking** の順に、ほぼ100年間隔で、強意語的機能が発達を遂げて来ていることを確認した。そして、共通の機能的進化として、adj. (pre-noun: attributive) ⇒ adj. (pre-noun: intensifier) ⇒ adv. (pre-adjective: intensifier) ⇒ adv. (pre-verb: intensifier), という機能転換 (functional shift) の1つである品詞転換 (conversion) が起きていることを明らかにした。

また、新井 (2011) に倣って、快・不快の意味を表す意味素性として [±PLEASANT] (略して [±P]) を導入し、罵倒語との共起語を、意味特性に基づいて整理し、①「共起名詞が不快な意味素性 [-P] を持つ場合と、②快でも不快でもない中立的な意味素性 [±P] の場合は、共起名詞に対して不快な意味合いを付帯する意味的韻律 (semantic prosody) 現象が感知できること」を確認した。さらにこれらが副詞として機能する場合は、③「快適な意味素性 [+P] を持つ形容詞とも共起する場合 (**bloody amazing**, **fucking brilliant**, **damn lucky**) があること」、④「動詞を修飾する場合 (**bloody come**, **fucking kill**, **damn want**) もあること」を明らかにした。

後半では、約30年の間隔がある BNC と NOW コーパスの2つの大規模コーパスから、罵倒語の共起語の頻度の高いものを抽出し、特に快素性 [+P] を持つ共起語の広がり度を調査してまとめ、最近はとりわけ、「**damn** と共起する [+P] 形容詞の種類と動詞との共起の種類が格段に増えていること」を明らかにした。

※本稿は、英語コーパス学会第44回大会（2018年10月6～7日、東京理科大学 神楽坂キャンパス）において口頭発表したものに、修正を加えたものである。  
※本稿は、2014年度からの文部省科学研究費の助成を受けた成果の一部である。

## 注

- 1) ここでは、damn は damned から発展したもので、damn = damned とみなして考えている。
- 2) Inserted between components of a collocation or phrase which are not normally separated, and sometimes (esp. **for comic effect**) into a word.
- 3) OED では、形容詞の初例として以下のものをあげているが、1669年までの他の例はなく、とりあえずここでは、以下のものよりも、1669年の方を初例とみなしておくことにしたい。c1540 in J. H. Forbes *Liber Officialis Sancti Andree* (1845) 139 Sayand and allegand 3ow ane commown **bluidy** huir.
- 4) **fucking 2.a.** (Used as an **intensifier**) In quot. 1864 the number of asterisks and contrast with the less vulgar *b-h* ('bitch') suggest that the obscured word may be *fucking*.
- 5) この作品は、1914年4月11日にロンドンの His Majesty's Theatre で上演された。後にこの演劇は映画化され、1938年に同じ題名で Anthony Asquith と Leslie Howard の主演で、1964年には、*My Fair Lady* という題名で Audrey Hepburn と Rex Harrison の主演で上映された。また、1983年には、Margot Kidder と Peter O'Toole の主演で、アメリカでテレビ映画化されている。原作のセリフにはほぼ忠実なものは、1938年の映画版と1983年のテレビ映画版である。どちらも、現在は、YouTube などでの視聴が可能である。
- 6) 意味的韻律について批判的に検討したものとしては、新井（2011）を参照されたい。
- 7) NOW corpus (one of BYU corpora) の説明は、NOW corpus のホームページにある次の内容が参考になる。なお以下の記述は、今回の分析をおこなった2018年9月末当時のもので、それ以降随時更新されている。

The NOW corpus (News on the Web) contains 6,649,000,000 words of data from web-based newspapers and magazines from 2010 to the present time. More importantly, the corpus grows by about 100–120 million words of data each month (from 200,000–250,000 new articles), or about 1.2 billion words each year. With this corpus, you can see what is happening with the language in the last month or so – not just 10 or 20 years ago. For example, see the frequency of words since 2010, as well as new words and phrases from the last few years.

8) この WELL の具体例を抜き出してみると、すべて以下の下線部の well のような、動詞を修飾する副詞であり、名詞と分析されるべきものではない。

(i) But I know pretty **damn well** that you know more about it than you're letting out. (17-10-19 US ABC News)

しかし他の BYU コーパスを含めて、NOW コーパスでは、damn の後の well を名詞として分析してしまう間違った仕様となっている。当面は、この点に留意する必要もあるので、注意喚起を込めて、本稿ではそのまま表 3 に載せておくことにした。

### 参考文献

- 新井洋一 (2011) 「不快表現との共起指向性が高い《予兆・発生・直面》表現」〈人文科学研究所叢書54〉『文法記述の諸相』281-341頁。(中央大学出版部)
- 高増名代 (2000) 『英語のスウェアリング』開拓社
- Fägersten, K. B & Stapleton, K. (2017) *Advances in Swearing Research*. John Benjamins.
- Hornadge, Bill (1980) *The Australian Slangue*. Norh Ryde, NSW: Cassell Australia.
- Hughes, Geoffrey (2006) *An Encyclopedia of Swearing*. Armonk, New York: M. E. Sharpe.
- Ljung, Magnus (2011) *Swearing: A Cross-cultural Linguistic Study*. Basingstoke: Palgrave Macmillan.
- McEnery, Tony (2006) *Swearing in English: Bad language, Purity, and Power from 1586 to the Present*. Routledge.
- Murphy, Bróna (2010) *Corpus and Sociolinguistics*. John Benjamins.
- Stenström, Anna-Brita et al. (2002) *Trends in Teenage Talk*. John Benjamins.
- Tagliamonte, Sali A. (2016) *Teen Talk: The Language of Adolescents*. Cambridge University Press.

### Corpus

BNC Corpus: <https://www.english-corpora.org/bnc/>  
NOW Corpus: <https://www.english-corpora.org/now/>  
OED3 (Online): <http://www.oed.com/>

